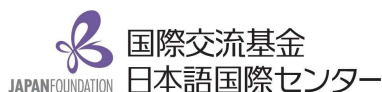


文字の教え方

Unit 1 準備 Part 2 日本語の文字



1. はじめに

このパートでは、日本語で使う文字の種類と特徴について学びます。

日本語ではいろいろな文字を使いますが、それはなぜでしょうか。そして、日本語では文字をどのように使い分けているのでしょうか。その他、日本語の文字を教えるうえで必要な基礎知識を確認します。

このパートのキーワード

かな(ひらがな、カタカナ) 漢字 ローマ字



漢字かな交じり文 表音文字 五十音表


表意文字(表語文字) 常用漢字

2. 日本語の文字の種類

まず、日本語で使われている文字の種類を確認しましょう。日本語ではどんな文字を使っているでしょうか。

【タスク 1】 次の駅の看板、レストランのメニュー、新聞、そして SNS のメッセージにはどんな文字が使われていますか。



が遅れています

少し遅れます ㄨ(^-^;)

【タスク 1】で見たように、日本語では漢字、ひらがな、カタカナ、ローマ字（アルファベット）、そして数字や記号などいろいろな文字が使われていますね。また、SNS のメッセージには、絵文字「🚉」「😞」や顔文字「ㄨ(^-^;)」も使われています。このように日本語ではいろいろな文字を使っているのです、それぞれの特徴を理解して使い方を身につける必要があります。

【タスク 2】 「日本」の国の名前をひらがな、カタカナ、ローマ字、絵文字で書いてみましょう。

①漢字	日本	④ローマ字	
②ひらがな		⑤絵文字	
③カタカナ			

①漢字は中国で作られた文字が 4~5 世紀頃^{ごろ}に日本に伝わり、そのまま日本で使われているものです。漢字にはいろいろな読み方があるので、このように書いて「にほん」と読んだり、「にっぽん」と読んだりします。②ひらがなと③カタカナをまとめて「かな」と言いますが、「かな」は 9 世紀頃に漢字から作られた日本の文字です。④ローマ字は西洋で使われているアルファベットが 16 世紀に日本に伝わり、使われているものです。⑤絵文字は SNS のメッセージ等で絵を文字のように使うものですが、例えば日本のことを日本の国の形や国旗^{こっき}で表します。

このように日本語では、同じことばをいろいろな文字を使って書き表^{あらわ}すことができますが、なぜこんなにたくさんの文字を使っているのでしょうか。そして、それをどのように使い分けているのでしょうか。

3. 日本語の文字の使い分け

日本語では、漢字とかなを交^まぜて文を書きます。これを「漢字かな交じり文」と言います。

【タスク 3】次の文章では、漢字とかな（ひらがな、カタカナ）をどのように使い分けているか、考えてみましょう。学習者にはどのように説明しますか

私はロシアから来たオリガです。きのう、友だちと一緒に JR で新宿へ行きました。

レストランで 980 円のえびフライ定食を食べました。帰るとき、急に雨がザーザーふってきて、びしょびしょになってしまいました。

では、「漢字かな交じり文」のルールを整理しましょう。といっても、日本語の表記のルールは実はあまり厳しくありません。たとえば、上の文章の「えびフライ」の「えび」はひらがなでも、カタカナの「エビ」でも、漢字の「海老」でも書くことができます。これは個人の好みや習慣によるところが大きく、例外も多いので、基本的なルールだけを覚えればよいでしょう。

【タスク 4】次の文の、カタカナ、漢字、ひらがなの言葉を分けて特徴を整理してみましょう。

「私はロシアから来たオリガです」

文字	言葉	特徴
カタカナ		
漢字	私	名詞
ひらがな		

日本語で漢字とひらがな、カタカナを交ぜて書くのには意味があります。たとえば、上の文を「わたしはろしあからきたオリガです」、「ワタシハロシアカラキタオリガデス」のように

全部ひらがなやカタカナで書くと、とても読みにくいですね。漢字とかなを交ぜて書くことで、言葉の区切りがわかりやすく、意味も理解しやすくなるのです。

日本語の文字の使い分けのルールをもう少し詳しく見ていきましょう。その場合、まず(1)カタカナの使い方、そして(2)漢字とひらがなの使い方の順番に考えるとわかりやすいです。

(1)カタカナの使い方

【タスク 4】で見たように、カタカナは外国のものに使うことが一番多く、外国の地名、人名の他に、「レストラン」や「フライ」のような外国から来た言葉、「外来語」にも使います。また、雨のふる音を表す「ザーザー」のような擬音語にも使います。「びしょびしょ」のような雨にぬれた様子を表す言葉を擬態語と言いますが、そちらは基本的にひらがなで書くことになっています。ただ、擬音語と同じようにカタカナで「ビショビショ」と書くことも多いです。

その他に、専門用語や動植物の名前も正式にはカタカナで書きますが、日常生活では漢字やひらがなで書くことも多いです。たとえば、「イヌ」は、「犬」でも「いぬ」でもかまいません。それから、「すきなもの」で「もの」を強調して目立たせたいときは、「すきなモノ」とカタカナで書くこともあります。

(2)漢字とひらがなの使い方

【タスク 4】で見たように、漢字は文の中で中心的な言葉、実質的な意味のある部分に使います。ただし、漢字で書く言葉は、基本的にひらがなで書いてもかまいません。たとえば「私」や「一緒」は、漢字でもひらがなでも書くことができます。どちらを使うかは、書く人の好みや習慣によります。日本語は漢字が多すぎても読みにくいので、漢字は全体の 30%ぐらいにするのがよいとされています。

一方、ひらがなは、文の中の補助的な部分、文法的な働きがある部分に使います。具体的には、助詞、助動詞、「帰る」の「る」のような活用語尾、そして接続詞などです。このような言葉は漢字で書くことはできないので、必ずひらがなで書きます。

4. かなの基礎知識

かなは、中国の漢字をもとに日本で作られた文字です。かなは、音だけを表して、漢字のような意味はありません。これを「表音文字」と言います。

かなには、ひらがなとカタカナがあります。「ひらがな」は、図 1 のように漢字全体をくずして簡単にしたものです。そのため、形が丸く、やわらかいイメージがあります。「カタカナ」は、図 2 のように漢字の一部だけをとって作られたものです。そのため、形が角張っていて、かたいイメージがあります。このイメージも、ひらがなとカタカナの使い分けに関係があるようです。

図 1



図 2



図3

	a	i	u	e	o
	あ	い	う	え	お
k	か	き	く	け	こ
s	さ	し shi	す	せ	そ
t	た	ち chi	つ tsu	て	と
n	な	に	ぬ	ね	の
h	は	ひ	ふ fu	へ	ほ
m	ま	み	む	め	も
y	や		ゆ		よ
r	ら	り	る	れ	ろ
w	わ				を o
					ん n

ひらがなとカタカナの全体を示すには、「^{ごじゅうおんひょう}五十音表」を使います。図3は、ひらがなの「五十音表」の例です。「五十音表」は、横に書かれた「aiueo」の5つの母音と、縦に書かれた「k、s」などの子音^{しいん}を組み合わせるかなの順番と音を示した表です。ただし、現在使われているひらがなとカタカナは、最後の「ん」^{ふく}を含めてそれぞれ46字ずつです。

日本語のかなは「一字一音」、つまりひとつの文字はひとつの音を表していると考えられています。ただし、実際のことばの中では、^{まわ}周りの文字、つまり音の^{えいきょう}影響で、同じ文字が^{ちが}少し違う発音をされることもあります。日本人はその違いに気が付いていない人が多いのですが、外国語として日本語を学ぶ人は気になるかもしれません。

また、日本語のローマ字表記は、日本語の音をアルファベットで表したものですが、実際の発音とずれているところがあります。それで、日本語を教えるときにローマ字を使うと発音に悪い影響を与えるという考え方もありますが、日本語の文字をキーボードで入力するときには

ローマ字を使うことが多いので、やはり覚^{おぼ}える必要があります。その他、かなを教えるときに気をつける点については、Unit2 の実践編^{じっせんへん}で詳しく扱^{あつか}います。

5. 漢字の基礎知識

漢字は中国で作られた文字です。古代の日本には文字がなかったので、中国の文字をそのまま使っていました。後から日本で作られた漢字もありますが、それを「国字^{こくじ}」と言います。

たとえば「畑^{はたけ}」や「働^{はたら}(く)」などがあります。

【タスク5】学習者から次のような質問があったら、みなさんはどのように答えますか。

Q1 漢字とかなは何がちがいますか。

Q2 漢字はいくつありますか。

漢字とかなの違いは、かなは「音」だけを表しますが、漢字には意味があります。これを「表^{ひょう}意文字」または「表語文字^{ひょうご}」と言います。また、漢字はひとつの文字にいろいろな読み方があります。そして、漢字の数は「かな」よりもずっと多く、いろいろな考え方があります。

【タスク6】次の数字は漢字を学習するときの目標^{もくひょう}になるものですが、それぞれの数の意味を説明しましょう。

100字	
300字	
500字	
1,000字	
2,000字	<small>じょうようかんじ</small> 常用漢字2136字 <small>いっぽん</small> ⇒一般的に使われる漢字

〈参考〉10,000字 ⇒ ジスJIS漢字(10,050字)、日本のコンピュータなどでひょうじ表示できる漢字

「漢字の数」にはいろいろな意味があるので、学習者のレベルや目標に合わせて紹介するとよいでしょう。

6. まとめ

日本語では、漢字、ひらがな、カタカナ、ローマ字、絵文字など、いろいろな文字を使っています。そして、日本語は「漢字かな交じり文」で書きます。漢字、ひらがな、カタカナの使い方にはルールがありますが、そのルールはあまり厳しくありません。

かなの全体は「五十音表」で示すことができます。学習の目標となる漢字の数にはいろいろなものがあるので、学習者のレベルや目標に合わせて紹介しましょう。

■ このパートの参考文献と参考サイト

- 国際交流基金(2011)『文字・語彙を教える』(国際交流基金日本語教授法シリーズ 3)

ひつじ書房



- 国際交流基金(2013)『まるごと 日本のことばと文化 入門 りかい』(三修社)
- 国際交流基金(2003)「かなを楽しく覚えよう」『日本語教育通信』45号
- 「常用漢字表」(平成22年内閣告示第2号)

https://www.bunka.go.jp/kokugo_nihongo/sisaku/joho/joho/kijun/naikaku/kanji/index.html

■ タスクの答え

【タスク1】(答えなし)

【タスク2】

①漢字	日本	④ローマ字	NIHON・NIPPON
②ひらがな	にほん・にっぽん	⑤絵文字	 
③カタカナ	ニホン・ニッポン		

【タスク3】(答えなし)

【タスク 4】

文字	言葉	特徴
カタカナ	ロシア、オリガ	外国の名前、外国の人の名前 ⇒外国のもの
漢字	私、来(た)	名詞、動詞 ⇒実質的な意味のある言葉
ひらがな	は、から、(来)た、です	助詞、助動詞 ⇒文法的な役割のある言葉

【タスク 5】(答えなし)

【タスク 6】

100 字	日本の小学 1 年生が勉強する漢字 (80 字) ⇒基本の漢字
300 字	2009 年までの日本語能力試験の 3 級 (初級) の目標
500 字	日本の新聞で使われる漢字の約 80% ⇒日常生活でよく使う漢字
1,000 字	日本の小学生が 6 年間で勉強する漢字 (1,006 字)
2,000 字	常用漢字 2136 字、新聞の漢字の 96% ⇒一般的に使われる漢字